

夏休み 手話覚えるぞ

伊予市のサークルが教室

小学生ら 季節の表現挑戦

伊予市の手話サークル「どんぐり」(山下 手話教室が、同市米湊

どんぐりの会員(左から2人目)から季節の手話を教わって実践する参加者

の市役所第2別館で今夏も開かれている。7日は、児童生徒や民生児童委員ら27人が、季節や曜日の手話表現を学んだ。

どんぐりは2013年から毎年教室を開催。25人の会員の大半を占める大学生以下のメンバーが講師役を務め、山下会長ら大人数が補足するスタイルで進行するのが特徴だ。

全5回のうちの第3回があった7日は、手話でそれぞれ自己紹介

した後、季節の手話表現に挑戦。夏はうちわで自分をおおぐような動き、冬は寒さに震えるような動作で示すと教わり、「好きな季節は春です」などの文を順番に披露した。

曜日の表現では、それぞれの手話が漢字の意味から連想した成り立ちであることを学び、動きを習得。会員がサポートして手話表現を学んでいた。最後は全員で、手話歌「ありがとうの花」に挑戦した。

昨年引き続き参加している郡中小学校6年西村百花さん(11)は「手話の由来を知るのは面白い。耳の聞こえない人に出会ったときに使えるようになったり。小学4年からどんぐり会員の松山学院高校2年山下美奈海さん(16)は「分かりやすく教えるのは難しいが、少しでも手話を覚えて使ってくれたらうれしい」とやりがいを語った。

(石川美咲)

【紙面編集】尾上芽吹